

第1回 (仮称)干潟地域小学校 学校再編準備委員会 要点記録

1. 日 時 令和6年6月24日(月)午後6時30分～午後8時16分
2. 場 所 ひかた市民センター 1階ホール
3. 出席委員 27名(欠席0名)
4. 次 第
 - 1 開 会
 - 2 依頼書交付
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 委員紹介
 - 5 準備委員会の進め方について
 - 6 会長、副会長の選出
 - 7 議 題
 - (1) 統合小学校の施設整備について
 - (2) 放課後児童クラブの運営について
 - 8 その他
 - 9 閉 会

【議題についての意見や質問の概要】 ➡は事務局の回答

(1) 統合小学校の施設整備について

- ・プール施設の活用として、業者委託は選択肢としてありだが、移動にかかる時間が正直もつたいたないと思う。現状でプールがある学校とプールがない学校とで水泳の授業回数に差はあるか。
 - ➡特に差があるということは聞いていない。
- ・既存のプールを室内用に改修工事する考えはあるか。
 - ➡室内プールを造るとなると体育館並みの屋根を造らないといけなくなり、高額な費用が予想される。元々古城小は簡易的な屋根が付いていたが、鳥や動物が入ってしまうと糞などの被害で逆に衛生的ではないということがあり、屋根を撤去した経緯がある。
- ・メリット、デメリットが出るのは仕方ないと思うが、業者に委託すれば夏に限定しなくても、

1年間通してプールの授業ができるのではないか。

- ➡業者に委託すれば、オールシーズンの中で5回は確保できるというのがメリットとして大きいと思う。事前に業者から聞いた中では、休館日を使って学校の貸し切りにして、一般の方と接触しないようにできるというのは聞いている。
- ・業者委託をした場合は、教えるのは先生ではなくて業者の方が教えるのか。また、評価の方法として、学校の先生はどのように参加してもらえるのか。
- ➡以前中学校では、プールの施設だけを借りて授業は先生が行うという形をとっていた。方向性が決まれば、今後打ち合わせをしていく中でどういう形にするか検討していく。評価の方法についても今後検討していくが、一概に業者に任せるということはなく、担任や学校側と必ず相談しながら行っていく。
- ・ビオトープは職員室からかなり離れた位置にあるので、例えば池などに低学年児が落ちてしまった時に目が届きにくいので、バスロータリー等に変えてしまってもいいと思う。
- ・限られたスペースで今後運営していくことを考えると、ビオトープはバスの駐車場とか、他の活用方法を検討しても良いと思う。職員室前に池の部分があるので、そちらで十分教育活動は行えると考ええる。
- ・この田舎でビオトープというのは都会では経験できないことだと思うので、完全になくすのではなくて、ちょっとした感じでも残せたらいいと思う。
- ・プールを取り壊すのであれば、そこにビオトープ的なものを作るのもいいと思う。

(2) 放課後児童クラブの運営について

- ・場所を分けると、教員と学童と保護者間で連携ミスが起こった際にトラブルになることが想定できるので、古城小に集約一択だと思う。その上でどうするかというのを考えてもらったほうがいい。
- ・学童は基本的に1箇所に集約したほうがいいと思う。学童と学校と保護者の3つの三角形が完全に連携してほしいと思う。この三角形が一つでも崩れてしまうと、子どもによってはどこかに行ってしまう子がいる。自分が中和なので本当はひかた市民センターに学童があればいいが、この建物で3校が集まって学童をスタートしても、大人の目が行き届かなくなったり、外遊びもできないので、子どもの熱気が増え、遊びたい気持ちも大きくなるので外遊びができるところでやったほうがいいと思う。
- ・一番心配する点はやはり移動というところ。移動する場合は、本人も分かっている、バスで

も確認して、学童でも確認してもらおうということが必要になると思うが、急に学童は行かないという連絡が入ったりすることもあるので、移動に関するところが一番心配。

- ・外遊びができるのは魅力的なので1箇所がいいと思う。
- ・古城小に集約した場合、今現在の利用者数70人はランチルームに入れるのか。
- 面積的には足りる。一学級40人程度としているので、ランチルームを二つに分けて、低学年側と高学年側みたいな形で改修することも考えられる。
- ・萬歳から迎えに行くという点で考えれば負担に思う方もいると思うが、夏休みの期間に朝から晩まで室内で過ごすというのは結構無理があると思うので、場所はできれば古城にしてもらい、外遊びができる状況を確保するのが、一日預けること考えると必須条件だと思う。
- ・安全面を考えると1箇所に集約してもらいたい。食育という面から見ると、ランチルームがなくなってしまうのは少しもったいない気持ちもある。